| 校訓 | 真 善 美 | 平成28年度学校だより<br>「荒中だより」<br>第7号 | 発行日 | 平成28年5月16日 |
|---|---|---|---|---|
| 教育目標 | 自主、自立、感謝の精神を抱き、<br>未来を拓く生徒の育成<br>-豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる- | | 発行者 | 伊丹市立荒牧中学校<br>校長　難波 重之 |


## 避難訓練が行われました

５月１３日（金）、中間テスト後の４校時に防災訓練を行いました。今回の訓練は、第２理科室からの火災を想定したものでしたが、先生方の指示に従い整然と行われました。しかし、火災はいつ、どこで起きるかわかりません。寝ている時に起きるかもしれません。日本全国のどこかで毎日火事は起きています。実際に、**伊丹市では平成２７年に３４件、２６年には５０件の火災が発生**しています。１０日に１度の割合で、火事が起きていることになります。

また、出火の激しさ、煙や体感温度などによってパニックになってしまうことも考えられます。だからこそ、**日頃から安全に対する知識や心構えを持ち、災害が起きた時に冷静に対処できるように、どう行動するかを常に考え準備しておく**ことが大切です。

人間はある範囲までの異常は正常範囲内と受け止めてしまい、何か危険が迫っていても、「自分は大丈夫」「自分とは関係ない」と現実逃避的に考えてしまうのだそうです。さらに、周りの人に合わせようという心理も働き、集団で逃げ遅れてしまうということが起こるそうです。東日本大震災の際の津波で、15,000 人を超える方が亡くなった一因に、このような心理現象が関係していたと言われています。

防災教育に熱心に取り組んできた岩手県釜石市では、地震が起きたら、**「最大限の努力をして逃げ続けろ」、「自ら進んで周りを巻き込みながら逃げろ」**と教えられていました。だから、中学生たちは大きな声を出しながらお年寄りを誘い、幼稚園児などを抱えながら避難所を目指しました。このような行動によって、犠牲は最小限ですんだのです。

**『自分の命は自分で守る』　この機会に、しっかりと考えましょう。**

## 火事から避難する際のポイント

① 早く避難する（命より大切なものはない）

② 下に向かって逃げる

③ できればドアを閉めて逃げる（延焼防止）

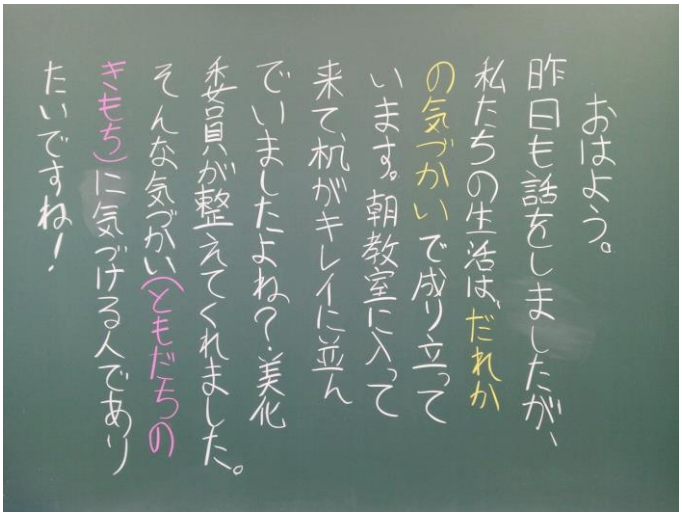
④ ぬれたタオルなどで口や鼻を押さえ、煙を吸わない

⑤ 煙の中にいる時は、低い姿勢で壁伝いに避難する

## 川上先生が着任されました

伊丹市では、市内全小中高等学校に、学校運営協議会を備えたコニュニティ・スクール（地域と共にある学校）づくりを進めています。５月９日、**川上 清（かわかみきよし） 先生**がコミュニティ・スクール（ＣＳ）推進に係る教員として着任されました。川上先生は、ＣＳに関する事務の他に２年生の数学を担当されます。よろしくお願いします。

## まわりに目を向ける気づかいを




左の写真は、５月１０日（火）、１年４組の黒板です。勝木学級では、毎朝前の黒板に上記のようなメッセージが書かれています。**人間は、たとえ視界に入っていても、自分から見ようとしないことは見えないものです。**色々なことが見えて、気づくことができる人になりたいものですね。

## きらめけ!!荒中生!!

**バドミントン部**　伊丹市教育長杯(5/7)　伊丹市緑ヶ丘体育館

３年女子団体の部　優勝　荒牧Ａ（堂本、佐々木、榮阪、高橋、西田）

２年女子団体の部　優勝　荒牧Ａ（東野、山本、吉田）　準優勝（田口、加藤、川端）

**自信と誇りを持てる学校を創ろう!!**